

「タレンツ・トーキョー2020」の実施及び公開プログラムの取材のご案内

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団は、映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2020」を以下の通り開催します。本年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の状況を踏まえ、オンラインで実施します。是非ともご視聴ならびにご取材いただきますよう、よろしく願いいたします。

■開催趣旨

本事業は、映画監督やプロデューサーを目指すアジアの参加者（以下タレンツ）に、世界で活躍していくためのノウハウや国際的なネットワークを構築する機会の提供を目的としています。映画監督、プロデューサー、ワールド・セールスの各部門において世界で活躍するプロフェッショナルを講師陣として迎え、講義やプレゼンテーションを通じて参加者の育成を図ります。また、タレンツ同士や講師との交流、さらには、同時開催される映画祭「東京フィルメックス」に集まる映画監督たちとの交流により、タレンツが国際的なネットワークを新たに築くことを目指しています。

※タレンツ・トーキョー2020のメイン講師及び参加者については、別紙1をご参照ください。

■開催概要

期 日：令和2（2020）年11月2日（月）から11月7日（土）まで

※「第21回東京フィルメックス」開催期間中の6日間

実施方法：講師・タレンツともに各国からオンライン参加

参加者：映画監督、プロデューサーを目指すアジアの若者15名

主 催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、

タレンツ・トーキョー実行委員会（東京フィルメックス）

助 成：国際交流基金アジアセンター

提 携：ベルリナーレ・タレンツ（ベルリン国際映画祭）

協 力：ゲーテ・インスティテュート 東京



タレンツ・トーキョー2019の様子

■主なプログラム

11月2日～4日及び6日 講義、グループディスカッション等（非公開）

11月5日（木）15:30～16:30 オープン・キャンパス（公開）

11月5日（木）17:00～20:00 公開プレゼンテーション（公開）

11月6日（金）タレンツ修了生及びゲスト講師による講義（非公開）

11月7日（土）ゲスト講師による講義（非公開）

※今回は、最新作「スパイの妻」にて第77回ベネチア国際映画祭で銀獅子賞（監督賞）を受賞された黒沢清監督が講師を務めます。

11月7日（土）14:00～14:30（予定）授賞式及び閉会式（公開）

※公開プレゼンテーションの結果、最も優秀な企画を表彰致します。

※公開プログラムの詳細及び取材については、別紙2をご参照ください。

<タレンツ・トーキョー2020に関する問い合わせ先>

タレンツ・トーキョー実行委員会事務局

TEL：03-6258-0333

Email：talents@talents-tokyo.jp

ホームページ：<https://talents-tokyo.jp>



本件は、『「未来の東京」戦略ビジョン』を推進する先導的的事业です。

戦略15 文化・エンターテインメント都市戦略「アートショーケース TOKYO プロジェクト」

本件は、「ホストシティTokyoプロジェクト」に係る事業です。

「カテゴリ：魅力発信 プロジェクト名：東京文化プログラムの拡充・推進」

<取材に関する問い合わせ先>

生活文化局文化振興部文化事業課 安田・大越 電話 03-5320-7658 内線 29-450

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 糸園・圓城寺 電話 03-6256-8432

「タレンツ・トーキョー 2020」 メイン講師



(左から、パク・キョン氏、ビアンカ・バルブエナ氏、セバスティアン・シェスノ氏)

パク・キョン(監督)

1987年、韓国国立映画アカデミーを卒業後、すぐに映画監督・プロデューサーとしてのキャリアをスタートさせる。ソウルオリンピックの公式ドキュメンタリーなど数々の作品にかかわった後、英チャンネル4との合作『あの島へ行きたい』（93 パク・クァンス監督）や、BFIの『Cinema on the Road』シリーズの韓国編、『シッキム』（95 チャン・ソヌ監督）、『チャン・ソヌ変奏曲』（00 トニー・レイズ監督）などをプロデュース。監督として手がけた作品には『モーテルカクタス』（97）や『ラクダ(たち)』（01）などがあり、特に『ラクダ(たち)』は第16回フリブール国際映画祭でグランプリとシナリオ賞を受賞、世界各国の国際映画祭に出品され話題となった。韓国国立映画アカデミーの学院長を9年務め、その間長編映画とアニメーションの制作プログラムを開始。大きな成功を収め、同校を世界的レベルの映画学校へと押し上げた。新たな人材育成にも力を入れており、釜山国際映画祭と共同でアジアフィルムアカデミーを立ち上げ、アジアの主要な映画人材育成プログラムに成長させる。2007年にはアジアの新鋭映画製作者のさらなる発掘と支援を目指し、シネマデジタルソウル映画祭(CinDi)を創設。数年でデジタル映画やアジアの新たな才能を紹介する重要なプラットフォームの一つとなる。2012年より檀国大学校専門大学院映画コンテンツ研究科教授として教鞭を執る。

ビアンカ・バルブエナ(プロデューサー)

フィリピン在住のプロデューサー、作家兼30本以上のシリーズや長編映画を手がける Epicmedia Production の CEO。タレンツ・トーキョー2012 修了生。代表作は、2009年ベネチア国際映画祭 Lion of the Future (新人監督賞) とオリゾンティ最優秀賞を受賞したペペ・ジョクノ監督作品『Engkwentro』、2016年ベルリン国際映画祭銀熊賞を受賞したラヴ・ディアス監督作品『痛ましき謎への子守唄』、そしてフィリピンで観客、批評家共に人気を得たアントワネット・ハダオネ監督作品『運命というもの』(14)。現在は、ロカルノ国際映画祭オープン・ドアで講師と EAVE アジア・アンバサダーを務める。2018年には、釜山フィルムコミッション：プロデューサー・オブ・ザ・イヤーを受賞し、アジア太平洋映画賞からアジア太平洋映画に多大な貢献を与えたとして、国際映画製作者連盟賞を受賞した。

セバスティアン・シェスノ(ワールド・セールス)

映画業界で20年以上活動する。これまでに France Télévisions Distribution、セルロイド・ドリームズ、Rezo で働く。2014年の終わりに、年間8本の映画を扱うワールド・セールス企業、Cercamon を立ち上げる。Cercamon とは、オクシタン語で世界の探求者を意味し、同社はメジャーなマーケットと映画祭を網羅する。担当した映画には、ダリボル・マタニッチ監督の『灼熱』(15) (カンヌ国際映画祭ある視点部門審査員賞受賞)、カミラ・アンディニ監督の『見えるもの、見えざるもの』(17) (東京フィルメックス最優秀作品賞受賞)、カーステン・タン監督の『ポップ・アイ』(17) (サンダンス映画祭オフィシャル・セレクション、ロッテルダム国際映画祭ビッグスクリーンコンペティション最優秀作品賞受賞) 等がある。

また、今回のプログラムにはベルリン国際映画祭(ベルリナーレ・タレント)より、フロリアン・ウェグホルン氏(プログラム・マネージャー)も参加いたします。

ゲスト講師

本事業では毎年、当事業の参加者向けに東京フィルメックスが招聘する映画監督や国際的に活躍する映画プロフェッショナルによる特別講義を実施しています。

本年度は、第77回ベネチア国際映画祭で銀獅子賞(監督賞)を受賞された黒沢清監督が篠崎誠監督を聴き手に講義を行う他、本事業の過去の参加者であり東京フィルメックスのコンペティション部門に初監督作品

「アスワン」が選ばれたアリックス・アイン・アルンパク監督とアーミ・レイ・カカニンディンプロデューサーによる講義、国際的な資金調達に関する講義などを予定しております。



黒沢 清 監督

- ・黒沢 清 (監督) 第77回ベネチア国際映画祭で銀獅子賞(監督賞)受賞
聴き手: 篠崎 誠 (監督) 第46回ベルリン国際映画祭ヴォルフガング・シュタウテ賞(最優秀新人監督賞)受賞
- ・アリックス・アイン・アルンパク (監督) タレント・トーキョー2015 修了生、第21回東京フィルメックス・コンペティション出品
- ・アーミ・レイ・カカニンディン (プロデューサー) タレント・トーキョー2014 修了生、第21回東京フィルメックス・コンペティション出品

「タレンツ・トーキョー2020」 参加者（タレンツ）

監督：

LIAO Zihao（中国）

Shae XU（中国）

林 俊作（日本）

北川未来（日本）

中井ノエミ（日本）

CHIA Chee Sum（マレーシア）

Okkar（ミャンマー）

Hector Barretto CALMA（フィリピン）

Nelicia LOW（シンガポール）

WENG Yu-Tong（台湾）

Puangsoi AKSORNSAWANG（タイ）

プロデューサー：

Nick CALPAKDJIAN（オーストラリア / インドネシア）

Yulia Evina Bhara（インドネシア）

Achinette VILLAMOR（フィリピン）

Geoderic LOMUNTAD（フィリピン）

*氏名（国名／地域名）

*タレンツ名は国名のアルファベット順で表示しています。

【参考】これまでのタレンツ・トーキョー修了生の主な実績（カッコ内は参加年）

・アンソニー・チェン(2010年)監督

『イロイロ めくもりの記憶』カンヌ国際映画祭カメラ・ドール（最優秀新人監督賞）他多数受賞

・石川慶(2011年)監督

『愚行録』ベネチア国際映画祭オリゾンティ部門出品、『蜜蜂と遠雷』毎日映画コンクール作品賞他多数受賞

・ビアンカ・バルブエナ(2012年)プロデューサー

『痛ましき謎への子守唄』（ラヴ・ディアス監督）ベルリン国際映画祭銀熊賞（アルフレッド・バウアー賞）

・ヨー・シュウホア(2015年)監督

『幻土』ロカルノ国際映画祭金豹賞（最優秀作品賞）受賞、東京フィルメックス・コンペティション部門出品、米アカデミー賞シンガポール代表

【タレンツ・トーキョー2020 公開プログラム取材のご案内】

1 公開プログラム概要

(1) 11月5日(木) 15:30-16:30 オープン・キャンパス

「ワールド・セールスとアジアの映画共同制作」をテーマに、講義を行います。

登壇者：ビアンカ・バルブエナ氏、セバスティアン・シェスノ氏【日本語同時通訳あり】

(2) 11月5日(木) 17:00-20:00 公開プレゼンテーション

タレンツが映画業界関係者に対して、自身の企画のプレゼンテーションを行います。

【日本語同時通訳あり】

(3) 11月7日(土) 14:00-14:30(予定) 授賞式及び閉会式

公開プレゼンテーションを行った企画のうち、優秀な企画1点を表彰します。

【日本語逐次通訳あり】

※各プログラムは限定公開のFacebook Live(英語)、YouTube(日本語同時通訳)にてご覧いただけます。

2 視聴・取材申込方法

視聴・取材を希望される場合は、4「取材における留意事項」にご同意の上、

令和2年11月3日(火) 正午までに、申込フォームよりお申し込みください。

<https://forms.gle/PMBnbUkgMtPYkukV6>



ご登録いただいたメールアドレス宛に、当日配信するFacebook Live及びYouTubeの視聴方法をお送りします(当日お昼頃の予定)。

各プログラムとも開始時刻の15分前より入室できます。プログラム開催中の入退室は自由です。

3 撮影について

(1) すべてのプログラムにつきまして、録音・録画・スクリーンショット等撮影はご遠慮ください。ご迷惑をおかけしますが、著作権及び営業秘密保護のため、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(2) 公開プログラム(「オープン・キャンパス」、「公開プレゼンテーション」、「授賞式及び閉会式」)につきましては、事務局より映像、スチール画像、音声素材を終了後に提供致します。ご希望の方は、申込フォームへご記入ください。

(3) 非公開プログラムについては、事務局からスチール画像の提供が可能ですのでご相談ください。

4 取材における留意事項

(1) 企画の著作権及び営業秘密保護のため、視聴方法を他者にお伝えすることはお控えください。

(2) 講師やタレンツへ個別取材をご希望される場合は、タレンツ・トーキョー実行委員会事務局へメール(talents@talents-tokyo.jp)にてご相談ください。

(3) プログラムの内容は変更になる場合がありますので、ご了承ください。